

科 目 名	生活技術学【理学】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	溝 田 勝 彦						
開 講 年 次	2	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	必 修（理学）
授業の概要 及びねらい	日常生活活動では機能の統合性が必要である。しかし、身体に機能障害が生じると統合性に乱れが生じ生活活動に障害を来す。これを改善するには日常生活活動（ADL）の概念を理解し、ADL 評価の目的、評価方法、問題解決の原理を考え、能力障害への評価治療が必要となる。本講義では ADL の概念や範囲をもとに ADL 評価、ADL 支援機器、基本動作、移動動作介助法について指導方法の原理を学習する。						
授 業 の 到 達 目 標	1. ADL の概念を説明できる。 2. ADL の範囲を説明できる。 3. ICIDH・ICF と ADL との関係について理解する。 4. ADL と QOL の関係について理解する。 5. ADL を運動学的にとらえて分析する方法について理解する。 6. 代表的 ADL 評価法を説明できる。 7. ADL 支援機器の基本的機能と指導方法を説明できる。 8. 基本動作について説明し、正常基本動作を動作分析できる。 9. 移動動作介助法の基本を理解できる。						
学 習 方 法	講義を主体とし、必要に応じてデモンストレーションを実施する。						
テキスト及 び参考書等	テキスト：「日常生活活動学（ADL）」神陵文庫、「生活技術学ノート」 参考書：「日常生活活動（動作）」医歯薬出版、「日常生活活動のキネシオロジー」医歯薬出版、その他適宜紹介						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎			○	100	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度							
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	ADL の概念・範囲						
第 2 週	ADL と QOL、ADL と運動学						
第 3 週	ADL 評価 ADL 評価の目的と意義						
第 4 週	ADL 評価 代表的な ADL 評価法						
第 5 週	ADL 評価 代表的な ADL 評価法						
第 6 週	ADL 支援機器 歩行補助具（杖、歩行器）						
第 7 週	ADL 支援機器 歩行補助具（杖、歩行器）						
第 8 週	ADL 支援機器 歩行補助具（松葉杖）						
第 9 週	ADL 支援機器 歩行補助具（松葉杖）						
第 10 週	ADL 支援機器 車椅子						
第 11 週	ADL 支援機器 車椅子						
第 12 週	ADL 支援機器 自助具・福祉用具						
第 13 週	基本動作						
第 14 週	基本動作						
第 15 週	移動動作介助法						
第 16 週	試験						
備 考	シラバスを参考に事前学習をして講義に望むこと。また、次回の講義までに前回の講義内容を復習しておくこと。						